

シンポジウムを開催しました！！



障害のある方が地域でその人らしく暮らすために、「相談支援」の果たす役割がますます重要になってきています。そこで、相談支援の仕組みに様々な立場から関わっている方々と、この制度を生かし、より良いものとしていくためのシンポジウムを平成26年1月14日に烏山区民会館ホールにて開催致しました。

世田谷区の相談支援体制と自立支援協議会の役割について

保健福祉部長 金澤 弘道氏



世田谷区では、サービス等利用計画を作成する地区の『指定特定相談支援事業者』それを地域としてバックアップする『地域障害者相談支援センター』そして全区的に取りまとめを行う『基幹相談支援センター』の三層による相談支援体制で取り組んでいます。私も区も、自立支援協議会の一員として障害者が安心して暮らせる地域社会をつくれるよう頑張っていきたいと思っております。

「支援者に求められること（意思決定を支える）」

自立支援協議会副会長 小佐野 彰氏



本人の意思決定支援は、福祉や医療の専門家に一方的に自分の生き方を決めてもらうのではなく、また孤独な自己選択と自己決定に放り出されるのではなく、障害のある人が多くの仲間や健常者との関係を持ちながら、周囲の人たちと頭を突き合わせて悩みながら自らの生き方を選び、意思を決めていく関係が必要なのではないかと考えています。

パネルディスカッション「出逢い、つながり、支えあい」

相談支援とはどのようなものか、どこで行っているのか、なぜ必要なのか、世田谷区の三層構造の相談支援の立場からそれぞれがどのような役割を担い相談支援を実践しているか、相談支援において重要なことは何か、パネルディスカッションを通して考えました。

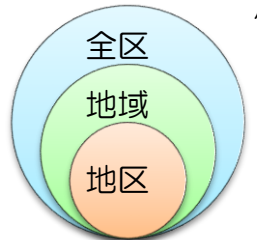


- 司会：鈴木 敏彦氏（世田谷区自立支援協議会会長・和泉短期大学児童福祉学科教授）
 地区：指定特定相談支援事業者（14ヶ所）
 社会福祉法人せたがや榎の木会 相談支援センターあい 中川 邦仁丈氏
 地域：地域障害者相談支援センター（5ヶ所）
 烏山地域障害者相談支援センター 北川 千鶴子氏
 全区：基幹相談支援センター（1ヶ所） 高橋 薫氏

中川氏『特定指定の大きな役割として「計画相談」があります。直接ご本人、家族よりお話を聴き、利用されている事業所があればその事業所からもお話を伺うなど作成にあたり、出来る限りその方のアセスメントを細かく取り、計画を読む事でその方の全体像が解るような計画になるように努めています。』

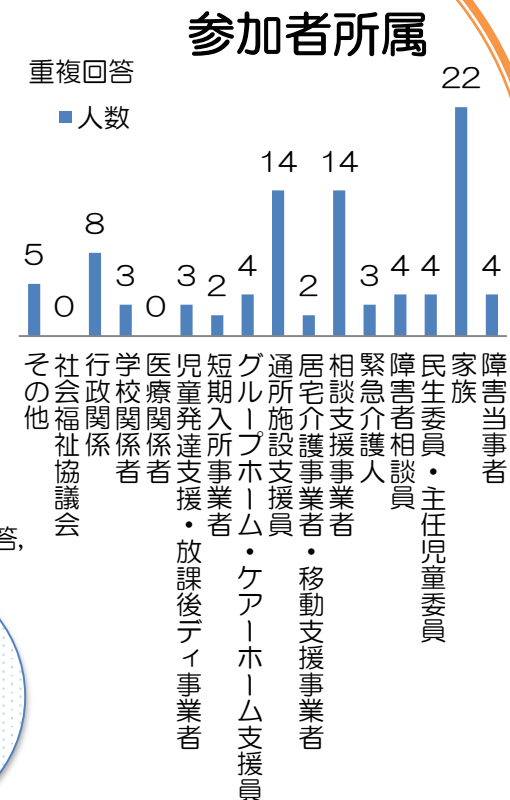
北川氏『障害種別問わず住まいの話から地域の社会資源の情報提供など多様な基本相談に対応しております。サービス担当者会議への参加、勉強会の企画などを通して指定特定相談支援事業者のバックアップを行っております。』

高橋氏『障害種別問わず基本相談を受け、必要な資源に繋がります。また世田谷区自立支援協議会の運営、相談支援を担う人材育成として障害者ケアマネジメント研修の実施、相談支援事業者連絡会の開催を通して地域障害者相談支援センター・指定特定相談支援事業者の支援を行っております。』



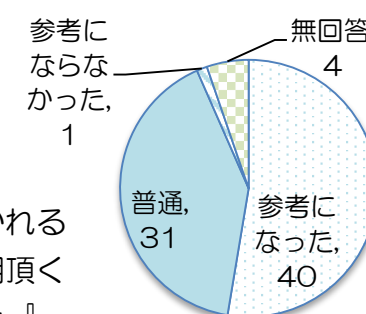
アンケート結果

参加者150人の内、アンケート回収数76人（約50%）内訳は、①障害当事者及び家族が26名（約34%）②通所施設等サービス提供事業者が25名（約33%）次いで③相談支援事業者14名（約18%）④行政関係、学校関係が11名（約14%）で、様々な分野の関係者の参加がありました。また、午前中の時間設定のためか、ご家族の参加が多かったです。



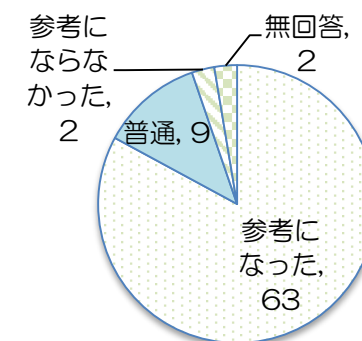
世田谷区の相談支援体制と自立支援協議会の役割について

『法整備が遅れているという現状の中、区として相談支援事業所をどのようにバックアップしているのか、今後の取組みをどのように進めていかれるのかということを含め、ご説明頂く機会があるとよいと考えました。』



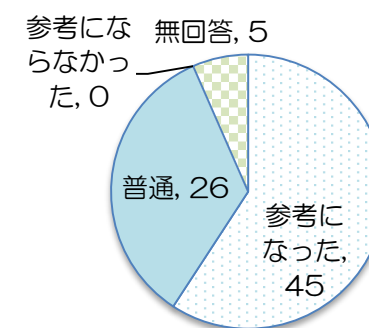
「支援者に求められること（意思決定を支える）」

『支援は本人の個性、生活全般、家族を含めたプランを立てることが大切だと改めて考えました。当事者の思いがサービスの質をテクニックでなく、配慮という側面で見ていることをとても大切な視点であると思います。「対等な対人関係を経験できない」構造的な問題に、どう支援できるのか…支援の難しさを感じます。』



パネルディスカッション

『三層の相談支援の役割がはっきり見えませんでした。地区・地域・全区の相談支援事業についてのお話は、よくやって下さっているなと思いましたが、担当する人が少なく、大丈夫なのか？という不安があります。全区内の課題の集約の難しさは、日頃より感じていますが、事例が蓄積していくことと、その情報が共有されていくことは今後も大切だと思います。』



今回のシンポジウムでは相談支援の役割、課題をご参加いただいた皆様と共有できたように思います。相談支援事業者並びにサービス提供事業者、地域の方、障害当事者及び家族も含めてお互いが支え合うこと、それが障害のある方が地域でその人らしく暮らすために大事になります。普段のご相談の中で一人一人のニーズを一般化することは難しいことです。一人一人のニーズを集めて集約することで、結びつくこともあり、それをこれからも自立支援協議会で取り組んでいきたいと思っております。